

# 青雲



未来をつくる  
君たちへ  
建設産業振興の広報誌



## 20号 2018.3

青年部会創立20周年「特別号」

発行人／一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会



# 「青雲」

—— 題 字 ——

前島根県知事 澄田信義 氏

# 青雲

## 20 MAR. 2018 VOL.20 CONTENTS

### 【巻頭言】

#### 1 時流に乗って理想を追う

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 部会長 山崎 育男

### 3 【創立20周年記念】

#### 【次世代建設就業者育成事業】

- 7 次世代建設就業者育成事業の背景と目的／現場見学会・意見交換会の概要
- 8 (主)出雲三刀屋線上塩冶工区現場見学
- 9 斐伊川放水路事業記念館視察／建設機械搭乗体験
- 10 意見交換会 第一部／第二部
- 11 テレビ放送・新聞記事掲載
- 12 出雲農林高校生の感想文
- 15 しまね建設産業イメージアップ女子会
- 16 アンケート結果
- 19 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)
- 20 出雲農林高校(環境科学科)中学生一日体験入学支援事業に参加して

### 【平成29年度事業報告】

- 21 クリーンアップ道路清掃 地域貢献委員会 委員 (株)小畑建設 小畑 健治
- 22 土木の日記念イベント 地域貢献委員会 委員長 (株)もりやま 森山 竜人
- 23 意見交換会2017 経営研究委員会 委員 大和建设(株) 布野 智大

### 【平成29年度卒業生より一言】

- 24 (株)御船組 御船 善弘 / (株)今岡興産 内藤 圭司
- 25 (株)中筋組 大野 剛 / (有)山崎組 山崎 育男

- 26 編集後記 総務広報委員会 委員長 出雲グリーン工業(株) 江戸 健一郎

## 時流に乗って理想を追う

一般社団法人  
島根県出雲地区建設業協会青年部会  
部会長 山崎 育男



平成29年度は、国内経済の景気回復局面が「いさなぎ景気」を上回り、戦後2番目の長さになっているものの、実感は乏しく建設業界においても首都圏と地方圏との事業量の地域間格差や大企業と中小建設業との企業間格差が一層拡大し、われわれ地域の建設企業の多くが厳しい経営環境を強いられた年であったと思います。また、消費税増税が予定される来年度以降、建設産業に及ぼす影響が大きくなるのが心配され、今年1年で、増税後の在り方を考えた体制づくりが急務になると思われま

す。昨年の10月の総選挙で、与党が勝利し安倍政権が第4次内閣をスタートし、アベノミクスをさらに加速させるということで、再び働き方改革が重要なテーマの1つとなっています。一億総活躍社会の実現に向け誰もが安心して働ける社会とし、労働力人口が減少する中で女性や高齢者の労働力を活用し、さらに労働における差別を解消することを目的としています。人口の減少とともに、労働力人口が2060年にはピーク時の半分まで減少するということが予測されるなか、建設業界でこれまで行なってきた担い手の確保・育成にむけた様々な取り組みについてもさらに加速させることが求められています。

出雲地区建設業協会青年部会では、これまで建設業の魅力発信並びに担い手確保・育成事業として、中学生を対象とした建設機械の搭乗体験、「しまね建設産業イメージアップ女子会」と共に高校生を対象に現場見学・意見交換を実施し、若者・女性技術者の確保につなげる活動を行ってきましたが、今年度は新たに青年部会創立20周年記念事業として、出雲農林高校環境科学科の生徒の皆さんと共に、高校敷地内に皆さんが必要としているものを自分達で考え、我々青年部と一緒に作り上げるという新たなプロジェクトを試みました。詳細は後ページをご覧くださいと思いますが、生徒の皆さんにとっては初めて多くの人とコラボ（協働）して「無から有」を創造するプロジェクトを約半年間かけ、発案～設計～測量～施工と立派なモーリン休憩所が完成しました。生徒の皆さんには、これまで現場見学会の時などに話しをしてきた建設業の魅力、“地図に残る仕事、みんなに使ってもらえる喜び、完成したときの達成感”を体感していただいたと思います。

今後、建設業界はI-Constructionの普及により生産性は向上し、建設業の働き方は大きく変化していきます。その中で、若者や女性が魅力を感じ希望が持てる職業にして

いくため、そして地域建設業が再び輝きを取り戻すために、我々がその魅力を幅広く伝えていくことが大変重要であり急務であると感じています。

終わりに、昨年6月に成立した天皇陛下の「退位特例法」により、平成は1年を余すところとなりました。バブル時代の中盤に始まり、バブルの崩壊とデフレ経済への突入と、急展開に変化した平成がまもなく終わります。来年の4月30日に退位し、5月1日に新しい天皇陛下の誕生となることが決まりました。改元は今年中に発表されると聞いていますが、新しい元号の頭文字は、M・T・S・Hにはならない元号なのでしょうか。果たしてどのような元号が選ばれるのか？

そして我々青年部会は、新たな時代も建設人としての資質向上、会員同士の絆を深め協会組織力の強化を図り、地域の建設産業の魅力を一層高め、新たな仲間を呼び込んで理想と幸福を目指して歩を進めて行きます。

出雲農林高等学校環境科学科生徒の皆さんとの共同製作「モーリン休憩所」に当たって、銘板に込めた生徒の皆さんへのメッセージです。

『この施設は環境科学科の皆さんで設計から製作までを手がけた作品です。物づくりの楽しさ魅力を感じ建設業への門戸を一人でも多く叩いてくれることを願います』



# おかげさまで創立20周年

平成9年に創立した青年部会は、お蔭をもちまして20周年を迎えることができました。

島根県建設業協会（現）会長中筋豊通氏のご尽力により創立された青年部会は、関係諸官庁の皆様のご指導と、地域の皆様のご支援に支えられながら、歴代部会長を先頭に先輩諸兄が、精力的に事業に取り組み20年の歳月を重ねてきました。

ここで20周年を記念し開催した【記念式典・祝賀会・記念事業】を紹介いたします。

## 【創立20周年記念式典・祝賀会】

開催日：平成29年5月18日（木） 開催場所：記念式典……出雲建設会館  
祝賀会……ベル・ブラージュ



創立にご尽力頂いた中筋会長



島根県青年部会の木村部会長



熱い思いを語る山崎部会長

## 歴代部会長と記念撮影（記念品のゴールデンスコップ）



左から第5代久文氏、第6代山崎氏、山崎部会長、第7代山口氏、第8代桐野氏

|        |       |           |        |       |           |
|--------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| 初代部会長  | 山本恭則氏 | 平成9年度     | 第5代部会長 | 久文秀典氏 | 平成18・19年度 |
| 第2代部会長 | 今岡裕統氏 | 平成10～13年度 | 第6代部会長 | 山崎章弘氏 | 平成20・21年度 |
| 第3代部会長 | 別所幸雄氏 | 平成14・15年度 | 第7代部会長 | 山口 弥氏 | 平成22・23年度 |
| 第4代部会長 | 広戸 修氏 | 平成16・17年度 | 第8代部会長 | 桐野直宏氏 | 平成24～27年度 |

## 【創立20周年記念事業】

建設業就業者の高齢化が進行していることは皆さんご存知の通りです。就業者の内29歳以下の若年者は約1割しかおらず、次世代への技術承継が大きな課題となっています。

青年部会では、一人でも多くの若者に建設業へ入職してもらおうと様々な事業を行ってまいりましたが、今回の記念事業では、島根県立出雲農林高等学校環境科学科の生徒の皆さんを対象に、さらに一步踏み込んだ取り組みを行いました。

就職したいと考えてもらうためには、建設業に魅力ややりがいを感じてもらわなければなりません。我々、地域建設業の魅力ってなんだろう？ やりがいってなんだろう？ と考えてみると、自ら携わって完成した施設（道路や建物）が地域の皆さんの生活に役立ち、その地域の発展に寄与できること、また、異常気象による災害など発生した時も真っ先に現地に駆け付け対応することも大きな役割の一つです。

施設を造ること、災害の対応をすること、いずれも大変な作業であることに変わりはありませんが、その作業が完成し地域の皆さんに喜んでいただくことは、大きな喜びであり、やりがいを感じる瞬間です。

今回の事業は、「施設を造ること」これを実際に体験してもらおうと考えました。それも生徒の皆さんで考え、将来にわたって学校にも自分たち（生徒）にも必要な施設を……。

そして出来上がった施設が、こちらの「**モーリン休憩所**」です。



この施設名称は、学校でアンケートを募り決定した名称です。「モーリン」とは出雲農林高校のイメージキャラクターです。さて、次の頁からは生徒の皆さんがいろいろな悩みながら作図している様子や頑張って作業している様子を紹介します。

周年事業委員長 青砥正人

# 生徒達の施工体験 I♥現場 建設業は楽しい



あせらず確実に測量しよう！



どんな想像も創造できるんだ!!



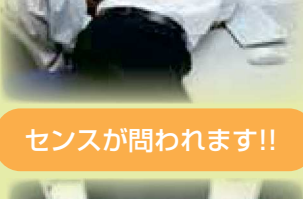
保護者の迎えを待つ休憩所が欲しいね！



モーリンは外せないね！



はじめは緊張気味だった生徒達も徐々に和気あいあいとイメージ図を作りました。



センスが問われます!!



出来上がったイメージ図から詳細デザインを検討し数量計算から材料費の計算まで行いました。



バイブレーターの威力に驚く生徒(^\_^) コンクリートの重さにバランスがとれず道板から脱線するシーンも(´Д`)!







慣れない道具に苦戦しながら型枠作業をおこないました！



10000個のタイルを貼るんですか(ﾟдﾟ)！？  
モーリンのためにガンバルか！！



下地が大事！！

真剣な表情がかっこいい(\*^\_^\*)



床タイルは段差ができないように  
注意して施工し、想像以上の仕上  
りにびっくりです。(^^)



タイルの微調整が難しくて目がチカチカする(>\_<)!!



水平にドリルを持つのが難しいね！

狭い場所で仲良く  
取り付け(^^)

ベンチ下には夜間用に間接照明を取り付けました。



お疲れ様でした



5月24日からスタートして半年間、様々な工程を体験して立派な施設が出来上がり出雲農林高校農業祭では一般来場者の方にも披露できました。  
11月22日には完成式を行い高校へ引渡しました。

## 次世代建設就業者育成事業の背景と目的

### “建設業に求められる若手人材の確保と育成”

開催まで、あと2年に迫った東京オリンピック・パラリンピックですが、都市部では競技施設の建設やそれに伴うインフラ整備など特需に沸いています。しかし、これは東京近辺での話であり、地域・地方経済にとって好影響は少なく、反対に資材の高騰、技術者・技能者の不足などマイナスの影響がより一層懸念されています。また、今後インフラ整備など国が東京に公共事業の財政支出を増やすことで、地方と大都市での地域間の経済格差が広がり、地方の建設業においてはさらに厳しい状況下に置かれると思われまます。

そして今現在、少子高齢化により日本社会全体が人手不足になっている中、いわゆる3K(きつい、危険、きたない)職場のイメージが建設業には未だ根強く残っており、それが入職者減少の一因となっております。しかしながら、地震や水害などの自然災害が多く発生する我が国において、国民の生活を支える重要な役割を果たしているのが建設業です。建設業の将来と発展のためにも、若手の技術者や技能労働者を確保し、育成することが地域建設業を支える大きな原動力になると考えております。

出雲農林高等学校の2年生を対象とした現場見学会・意見交換会の事業も早いもので5年目を迎えました。参加者にはこの事業を通じて、実際に現場を肌で感じてもらい、疑問に思った事や意見をしっかりと話し合うことで、建設業に対するネガティブなイメージや不安が払拭され、理解を深めてもらい、生きがい・働きがいを感じてもらえると期待しております。

### 現場見学会・意見交換会の概要

- 学校名 島根県立出雲農林高等学校
- 開催日 平成29年11月1日(水)
- 現場見学参加者 環境科学科2年生 39名(うち女性6名)、教員2名

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:00~9:30   | 出雲農林高校 ⇒ 工事現場<br>オリエンテーション(車中)                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 9:30~10:50  | <b>●現場見学会</b><br>発注者 島根県 出雲県土整備事務所<br>受注者 今岡工業株式会社<br>工事名 (主) 出雲三刀屋線 上塩冶工区 総合交付金(改築)工事 第3期<br>施工場所 出雲市上塩冶町地内<br>農林高校生 挨拶<br>出雲県土整備事務所 挨拶及び事業概要等説明(西村係長)<br>(体験内容)<br>①施工現場見学(地盤改良工 深層混合処理)<br>②測量機器・ドローンによる技術の紹介<br>③VR体験の紹介(他現場のデータを用いた体験)<br>④ICT活用土工概要説明<br>⑤快適トイレ視察                                  |
| 10:50~11:00 | 出発 工事現場 ⇒ 着 斐伊川放水路事業記念館                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 11:00~11:40 | <b>●斐伊川放水路事業記念館</b><br>出雲市(建設企画課)<br>農林高校生 挨拶<br>斐伊川放水路記念館 見学                                                                                                                                                                                                                                            |
| 11:40~11:50 | 出発 斐伊川放水路事業記念館 ⇒ 着 出雲建設会館                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 11:50~12:45 | 昼食・休憩                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 12:45~13:00 | 出発 出雲建設会館⇒ 着 三和興業ヤード(古志)                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 13:00~14:40 | <b>●建設機械搭乗体験 → 三和興業 ヤード(古志)</b><br>農林高校生 挨拶<br>建設機械搭乗体験 担当者:(株)板倉重機<br>農林高校生 挨拶<br>・建設機械搭乗体験<br>アーティキュレートダンプ 2台<br>バックホウ 0.8m3級 2台<br>・しまね建設産業 イメージアップ女子会                                                                                                                                                |
| 14:40~15:00 | 出発 三和興業ヤード(古志) ⇒ 着 出雲建設会館                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 15:00~16:40 | <b>●意見交換会</b><br>(出雲建設会館) 講演会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎部会長挨拶</li> <li>・若手職員講演</li> <li>飯塚雄基氏(トガノ建設)</li> <li>・イメージアップ女子会</li> <li>吉村鈴歌氏(豊和設備)</li> </ul> 20周年事業DVD放映<br>~ 休憩 ~<br>意見交換会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・内藤副部会長閉会挨拶</li> <li>・アンケート</li> </ul> |
| 16:45~17:00 | 出発 出雲建設会館 ⇒ 着 出雲農林高校                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

# (主)出雲三刀屋線上塩冶工区現場見学

総合交付金(改築)工事 第3期 発注者 島根県出雲県土整備事務所  
受注者 今岡工業株式会社



受注者担当者からの工事説明



地盤改良スラリー攪拌(CMC工法)



ドローン飛行実演



VR(バーチャルリアリティー)体験



最新機器の見学・実演





斐伊川放水路  
事業記念館視察



斐伊川放水路事業について担当者から説明

建設機械搭乗体験



楽しみにしていた搭乗体験



## 意見交換会 第一部 講演、若手・女性社員の体験談



株式会社トガノ建設 飯塚 様



しまね建設産業イメージアップ女子会 吉村 様

## 意見交換会 第二部 グループ討議



建設業の  
魅力は…

つくる喜び！達成感！  
でも、……  
給料は？ 休暇は？  
様々な質問に会場は  
盛り上がっていました。



# 本事業をマスコミに取り上げていただきました!



建設興業タイムス 平成29年11月08日(水)

## 農高生と意見交換

### 建協出雲青年部

出雲地区建設青年部(山崎育男部長)はこのほど、同市内で現場見学・意見交換会を開き、出雲農林高校環境科学科の2年生39人が参加した。

①出雲三万屋線上塩治工区総合交付金(改善)工事第3期の現場で地盤改良工法の見学やドローン操作を体験したほか、3Dデータ



装置を付け仮想体験する生徒ら＝出雲市上塩治町

を仮想体験。実際にスコップを装着した生徒は「すごい」と歓声を上げながら、バーチャル世界内に完成した現場を歩いていた。

また、女子生徒たちは、しほ建設産業イメイシアップ女子会と意見交換。生徒から結婚や育児が不安との意見が出る中、会員からは「見がけると、会員からは自身の経験を交えながら、今は制度が拡充



出雲ケーブルビジョン平成29年11月1日放送



島根日日新聞 平成29年11月04日(土)

## 建設業の魅力を知って

### 出雲農林高生、建設機械に搭乗

出雲地区建設業協会青年部会

建設業の魅力を紹介し、同業界の将来を担う若い人材を呼び込むこと、県出雲地区建設業協会青年部会(山崎育男部長)が1日、



バックホウの搭乗体験をする生徒＝1日、出雲市古志町の三和興業敷地

県立出雲農林高校(三)1学科2年生約90人を対象に、島一各校での理療科に、現場見学や建設機械の搭乗体験が行われ、1人ずつバックホウ(0.8立方メートル)やアーチェリートランプ(4ト)等に乗り、追力ある重機の動きを体験した。最後に、会場を出雲建設会館(同市塩治町)に移し、同部会の会員らと生徒たちによる意見交換会が行われた。

水路事業記念館を見学。現場では、近年普及が進みつつあるICT(情報通信技術)を活用した工事の説明なども行われた。

続いて三和興業(同市古志町)の敷地内で実際に使われている建設機械の搭乗体験が行われ、1人ずつバックホウ(0.8立方メートル)やアーチェリートランプ(4ト)等に乗り、追力ある重機の動きを体験した。

最後に、会場を出雲建設会館(同市塩治町)に移し、同部会の会員らと生徒たちによる意見交換会が行われた。

参加した坂根愛唯(あいさん17)は「現場でしほ建設産業イメイシアップ女子会」の方から話が聞けて興味を持てた。搭乗体験がとても面白かった、松原日南(ひな)さん(17)は「将来建設業に進むことを考えていたので、今日はとても有意義な体験ができて良かったと話した。

山崎部長は、「今日の体験を通して、これまで遠くから見ているもの良いところを知ってもらう機会になれば、将来地元で建設業などに就職してもらえたらうれしい」と話していた。

## 工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校  
環境科学科2年 桑田理来



今日一日でたくさんのことを学ぶことができました。そして、建設産業へのイメージが変わりました。私の中の建設産業のイメージは、きつくて、とても厳しいものだと思っていました。ですが実際の現場に行ってみると、すごくきれいに整理してあり、現場の方々は優しく明るくて、今までのイメージとは全く違いました。今は機械を使って仕事をするのがほとんどで、とてもハイテクなドローンなどもあるし、カッコいい重機もあるので、すごく楽しそうな仕事だなと思いました。

私が今回の体験で一番心に残っているのは、意見交換会の際にお話しされたことでした。それは、現場が汚れていると危険で事故につながる確率が高くなるから、常に整理整頓してきれいにしておくことにすごく気を使っているということでした。どんな職業よりも一番安全に気を使っている仕事だなと感じました。毎朝ミーティングしてから現場に行くということで、現場にいる人全員が作業手順や内容を理解し、どんなことに気を付けたらいいのかが伝わって良いことだなと思いました。3Kなどと言われてあまり良いイメージではない業界かもしれないですが、実際に体験してみるとそのイメージは大きく変わるものだなと思いました。

現在の私は、建設産業とは関係のない学校に進学しようと思っています。ですが、もしそうでなければ建設業に就くのも良いなと思いました。今までは楽しそうに思えない仕事だなと思っていましたが、中味が分かり本当に良い一日になりました。普段では体験することのできないことがたくさんでき、どのような人材が求められているのかを知ることができました。私も、どの方向へ進んでもその場所で求められるような人になれるように、これからの学校生活を今まで以上に頑張っていこうと思いました。



## 工事現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校  
環境科学科2年 青木里央

私たちが目指している職業の方との意見交換会は、進路を考える上でとても参考になりました。

土木は男性の仕事というイメージが強く、インターンシップやこれまでの見学会でも男性の方から説明を受けたりすることがほとんどでした。しかし今回は、実際に土木関係の仕事をしておられる女性の方々もおられ、今まで疑問に感じていたことや、進路を考える上で大切な事などを聞くことができとても良かったです。公務員と民間企業の違いについても細かいところまで教えてもらい、それぞれの良いところとそうでないところが分かったので、進路を考える時に幅広く目を向けられるようにしたいと思いました。女子会の皆さんとの話し合いだけでなく、同じクラスの女子が自分の進路についてどう考えているのかも参考になりました。

今回の見学会では様々なことを体験させてもらいました。体験するまでの私は、土木の仕事は「汚い、きつい、危険」という3Kの印象が強く、女性が少ないし、肉体労働ばかりでつらい仕事だろうと思っていました。ですが、私のイメージとは全然違っていました。その中でもドローンは何回見てもすごい機械だと感じました。1年生の時の見学会でも見させてもらいましたが、その時よりも写真を撮るのが断然楽になっているし、その写真を元に3Dデータを作ったりできるというのがハイテクだと思いました。今回はそのドローンの操縦もさせてもらいましたが、意外に操作が難しかったです。でもラジコンみたいなので慣れたら操縦できそうだし、様々なことに活用できると思いました。工事に使用されるその他の機械もどんどんハイテクになると思うので、進化していくことが楽しみです。

今日の工事現場見学会・意見交換会は、私たちの就職や進学を決めていく上ですごく大切な一日だったと思います。今回の体験はもちろん、これまでの経験を活かして、自分の進路をしっかりと決めて行きたいと思いました。お忙しい中、私たちのためにありがとうございました。





## 工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校  
環境科学科2年 高見 仁 晴



今回の工事現場見学会・意見交換会に参加してたくさん  
のことを学ぶことができました。

最初の工事現場では、VR体験やドローンの操作など、最新  
の機械を使って細かく丁寧に説明していただきました。土木  
の工事現場というものは、自分の中では昔ながらのやり方で作業をしてい  
るというイメージがあったので、そのイメージが大きく変わりました。今は  
とても作業しやすい環境なのだと思います。また、最新のトイレを見せて  
もらいとてもきれいで使いやすかったです。女性の方もおられたので、  
不自由なく作業を進めることができるかなと思いました。工事現場も日々進  
化しているのだなと思い、すごく感心しました。

今日一番印象に残ったことは、大型のバックホウなどを運転したこと  
でした。滅多にできない体験ができてとても感動しました。操縦するのはすごく  
難しかったです。オペレーターの方に優しく教えていただいたおかげで楽  
しく操縦できました。あんな大きな機械を自分の思い通りに動かした時は思  
わず笑顔になりました。普段味わうことのできないことができて最高でした。  
20年以上操縦しておられる方のパフォーマンスを見た時は感動しました。  
自分の手足のように軽々と操縦されていて、カッコいいなと思いました。

意見交換会最初の2人の方のお話は、自分の経験を踏まえた内容で、とて  
も参考になりました。グループワークの時間は質問に丁寧に答えていただき、  
建設業という職種の素晴らしさを改めて感じることができました。とてもや  
りがいがあり、誇れる仕事でカッコいい仕事だと思いました。危険なイメ  
ージが強かったけど、今回の意見交換会でガラッとイメージが変わりました。  
大変だとは思いますが、その頑張った分、達成感が  
得られると思いました。

とても充実した一日を  
過ごすことができました。  
ありがとうございました。



## しまね建設産業イメージアップ女子会

平成29年11月1日、出雲農林高校生を対象とした現場見学会・意見交換会に、「しまね建設産業イメージアップ女子会」（以下「女子会」という。）メンバーとして初めて参加させて頂きました。

まず、印象的であったのが、建設業を学ぶことに対する学生の積極的な姿勢でした。

当日は、VR体験の紹介や測量機器・ドローンによる技術の紹介等、普段使用することのない技術を用いた講義内容が盛り込まれており、学生にとって、とても興味深いものであったと思います。そうした技術に触れ、楽しそうにしている姿や、積極的に質問をしている学生の姿を拝見し、建設業の担い手確保の観点から、非常に貴重な人材であることを実感しました。

また、建設機械の搭乗体験の合間には、学生を対象に、しまねイメージアップ女子会の活動紹介の時間を頂きました。建設業で活躍する女性技術者を掲載した「建設産業イメージアップカレンダー」を紹介すると、既にカレンダーについて知っている学生がいたことから、私たちの活動が広く認識されていることを実感し、嬉しく思いました。また、数名の女子学生が、建設業で働くことのやりがいや、女子会の活動内容について、私たちに積極的に質問をしてくれたことで、非常に充実した時間を過ごすことができました。

意見交換会では、女子学生全員と女子会メンバーで一つのテーブルを囲み、主に建設業で働くことについて、意見交換をさせていただきました。女子学生が建設業で働く上で、重要視していることを直接聞くことができ、私たちの今後の活動の参考となりました。

出雲地区建設業協会青年部会の皆様には、このような貴重な機会に女子会を呼んでいただき、大変感謝しております。この機会ですんだことを活かし、建設産業が魅力あふれる職種であることをこれからも発信しつづけたしたいと思います。



## 実施日／対象者

■…平成29年11月1日／見学会参加生徒 39名

■…平成28年11月8日／見学会参加生徒 40名

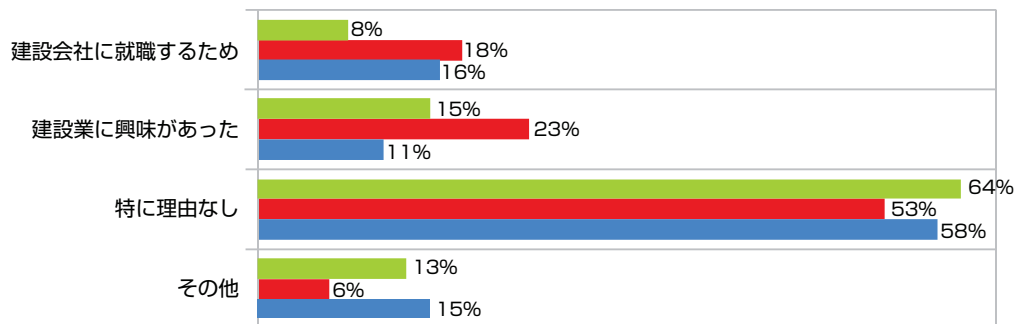
■…平成27年11月6日／見学会参加生徒 19名

## アンケート結果

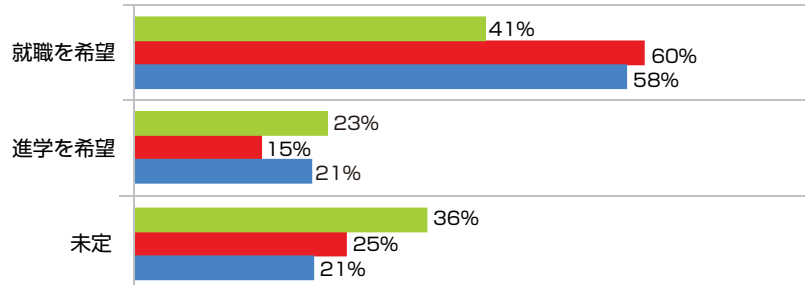
**目的** 地域建設業界には、経営環境の改善が厳しい中、「働き方改革」や「生産性の向上」の推進など様々な課題が山積していますが、その中の一つに「人口減少・高齢化」などに伴う若年労働者の減少があります。この課題は若手技術者だけでなく、型枠大工や重機オペレーターなど様々な職種の技能工においても同様です。建設業就労者の高齢化がこのまま進むと、熟練工の卓越した技術が若手技能工に継承されなくなってしまいます。このことは建設現場の問題だけでなく、災害等が発生した緊急の場合や、豪雪時の除雪オペレーター不足にも影響し、地域住民の方々の生活に密接に関係してくる問題です。

こうした現況を踏まえ、これから我々青年部会が取り組むべき、若手就職希望者の確保・促進に資する事業の参考とするため、高校生にアンケートを実施させていただきました。

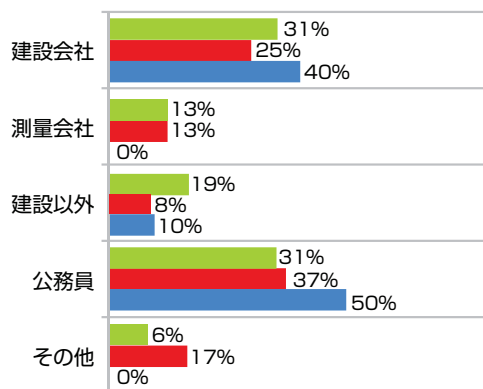
## 出雲農林高校に進学した理由は何ですか



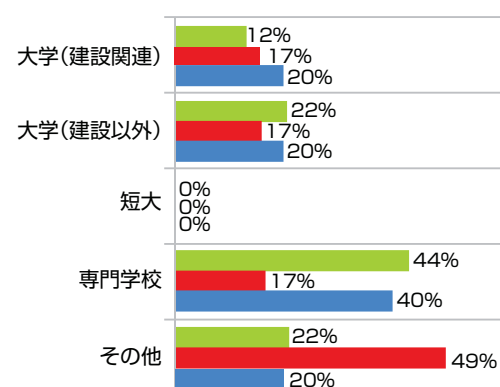
## 高校卒業後の進路について伺います



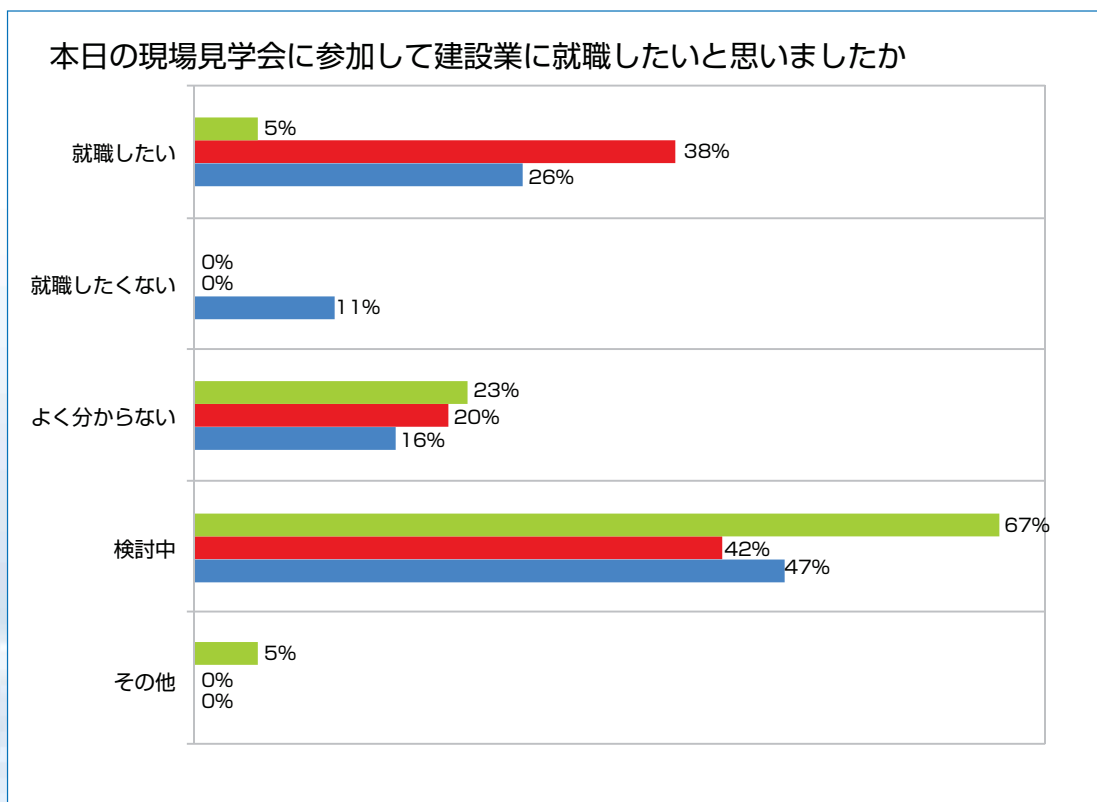
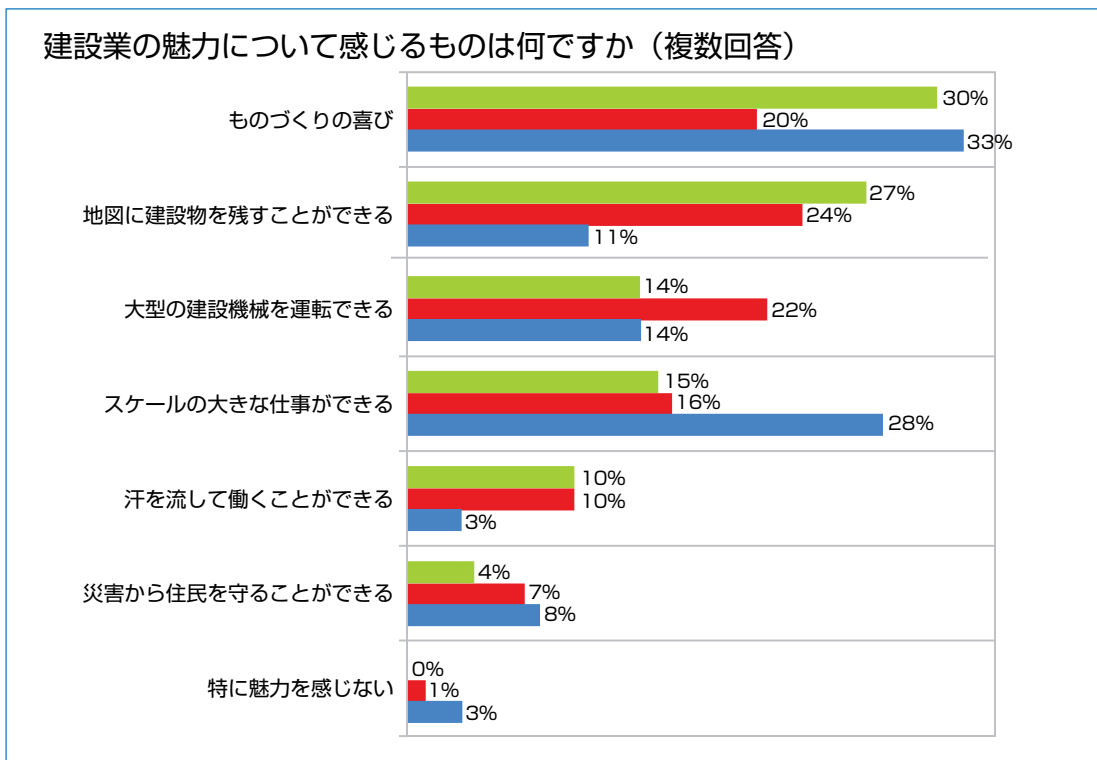
## 就職を希望した人



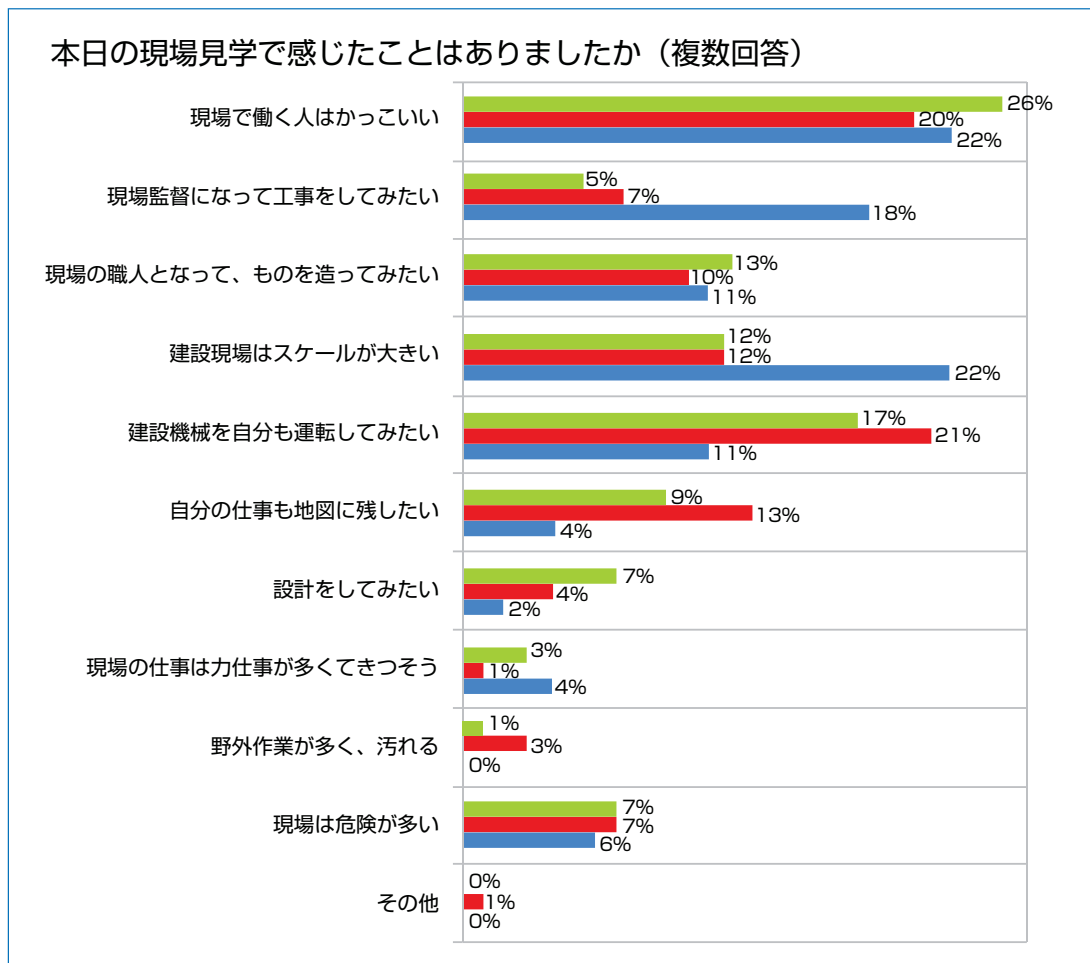
## 進学を希望した人



■…平成29年度  
 ■…平成28年度  
 ■…平成27年度



■…平成29年度  
■…平成28年度  
■…平成27年度



## アンケート結果(まとめ)

出雲農林高校環境科学科に進学した理由では、「特に理由なし」と回答する生徒が年々増加していることは残念な結果ですが、「建設業に就職するため」、「建設業の興味があつた」との目的をもった生徒が2～3割いることは大いに期待していいものと思います。

そして、高校卒業後の進路について「就職を希望」の生徒は4割を超え、その生徒のうち「建設会社」、「測量会社」を希望する生徒も4割を超えていることに加えて、公務員希望の生徒もその多くが土木技術職員を目指していると聞いており、将来への期待は大きく膨らむ結果として捉えたいと思います。

建設業の魅力については、「ものづくりの喜び」「地図に建設物を残すことができる」「スケールの大きな仕事ができる」などの項目が高い数値を示していることは、我々青年部会が取り組む現場見学会や意見交換会を通じて、その思いを実感してもらう一助になる事業ではないかと思えます。

現場見学会で感じたことなかで、「現場で働く人はカッコいい」「現場の職人になってものを造ってみたい」「建設現場はスケールが大きい」など、建設業に対して興味、魅力を感じた生徒が多かったことは、建設業を就職先として検討してもらうきっかけを提供できたのではないかと同時に、現場見学会・意見交換会に参加した生徒さんの中から、一人でも多く建設業に就職される方が増えることを期待したいと思います。

## 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を 実施して感じること(考察)

次世代建設就業者育成事業(現場見学会)は、平成25年度の実施から今年で5回目となりました。

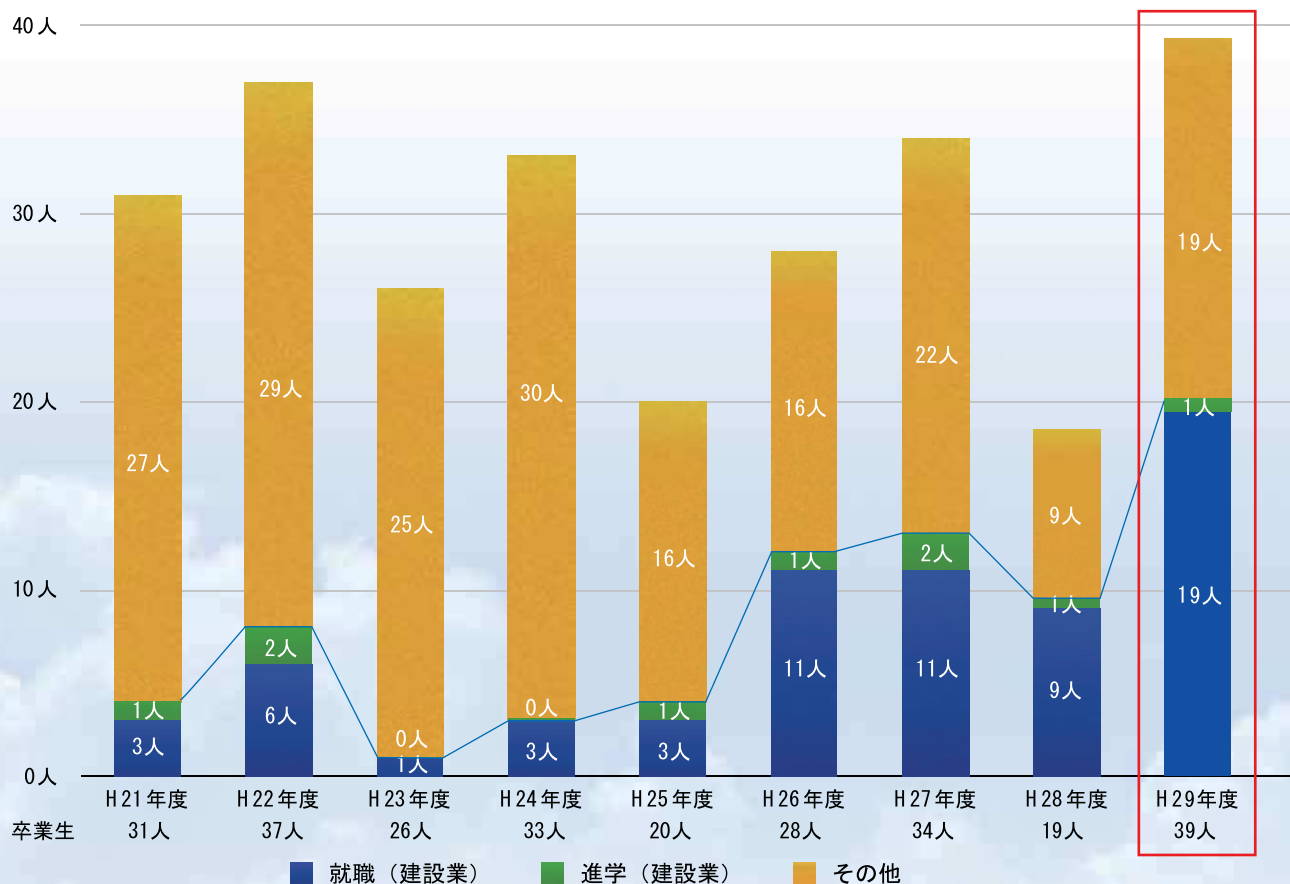
近年、全国的に高校を卒業してからの就職先として「職人」を目指す卒業生が増えているようです。建設業も「職人」として認識され、入職率が上昇しているようで、出雲農林高校環境科学科卒業生の入職者も増加傾向にあります。

今年度は、卒業生のうち、建設業関係・コンサルタント関係に就職される方が14名(内女性6名)、公務員(土木技術者)として就職される方が5名(内女性1名)とのことです。7名の女性が建設関係に就職されることは、現場見学会や意見交換会等でご協力いただいた「しまね建設産業イメージアップ女子会」の皆さんの貢献は大きく、我々青年部会としても大変喜ばしく思っています。

平成29年度は青年部会創立20周年目ということで、その記念事業として環境科学科2年生と3年生の皆さんと共に、「モーリン休憩所」を製作しました。生徒さん自らが土木・建築にかかわる施工を体験したことは、これまでに味わったことのない達成感を感じてくれたことと思います。

そして、我々青年部会が取り組んでいる現場見学会や意見交換会を含めて、生徒の皆さんにとっては、体験こそが好奇心を湧き立たせ、入職意欲の喚起に繋がるものと確信しており、引き続き、建設業の魅力を発信していきたいと思えます。

### 卒業後の進路状況



島根県立出雲農林高等学校環境科学科 進路決定状況より

## 出雲農林高校(環境科学科) 中学生一日体験入学支援事業に参加して

経営研究委員会 委員

岩成工業(株) 西村 善文



平成29年8月23日(水)、出雲市内外の中学3年生を対象とした島根県立出雲農林高等学校主催の一日体験入学に参加しました。

出雲農林高校は市内唯一の土木系専門学科を有しており、青年部会では同学科生徒を対象として次世代建設就業者育成と建設業の魅力発信、イメージアップを図るための取り組みとして、現場見学会や意見交換会を継続的に行っています。

中学生一日体験入学支援事業は、同校への入学を検討している中学生を対象とした事業であり、今年度で2回目になります。当日は天候にも恵まれ、総勢73名の中学生が参加されました。

工事現場紹介のパネル展示やDVD視聴、建設機械の搭乗体験では、バックホウ0.25m級2台を用意し掘削作業を体験してもらいました。

パネル展示での工事紹介やDVD視聴時には、青年部会員に積極的な質問があり、中学生の視点からの質問はとても新鮮でした。在学生の環境科学科の生徒も積極的に話しかけるなどして笑顔で会話していました。

バックホウ運転体験では、運転操作説明時には緊張した表情でしたが、運転するにつれ次第に表情も柔らかくなり、終了時には「楽しかった」と笑顔で言ってくれたのが印象的でした。

今回の一日体験で、建設業は社会インフラには必要不可欠である重要な職業であることと、従来の建設業に対する悪いイメージ(汚い、きつい、危険)を少しでも変えることが出来たのではないかと思います。

参加された生徒の皆さんが進路を決める際に、将来建設業へ就職をしたいから出雲農林高等学校の環境科学科を希望し、将来建設業への就職を目指してくれる生徒が増えることを願っています。



## 地域貢献事業報告

## 第18回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦

地域貢献委員会 委員

(株)小畑建設 小畑 健治



本年度も地域貢献活動の一環として「第18回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦」を、平成29年7月22日、県道335号線空港西交差点から南へ約600m先の交差点までの区間と、県道243号線空港通り交差点から空港入口までの区間、総延長約2.2kmの歩道及び路肩の除草・ゴミ拾いを実施しました。

当日は、青年部会34名・事務局2名・出雲県土整備事務所20名・協力業者3名の総勢59名での作業となりました。

猛暑の中、熱中症等にならないよう小休憩を多く取り、こまめな水分補給に注意しながら、6班に分かれて草刈機や鎌を使用し路肩の草刈り、火バサミでのゴミ拾いなど、大汗をかきながらの作業となりました。雑草が多く、例年苦戦する場所では、最終的には一極集中の人海戦術で作業に臨み、作業全体で2tダンプ4台の草とゴミ袋(30L)×約20袋を集積することが出来ました。

今回で4回目となる空港沿線道路でのクリーンアップ作戦は、自分にとっても担当委員会メンバーとして携わらせていただき4回目となりました。空港沿線道路でのクリーンアップ作戦を行う前までは、空港沿線道路を通行しても何も気にかげず素通りするだけだったのですが、クリーンアップ作戦以降は、道路を通るたびにクリーンアップ作戦を思い出し、「せっかく綺麗にしたのに、もう草が伸びちょ～わ」と思ったこともあります。

今後も年に1回ではありますがクリーンアップ作戦を継続していくことで、少しでも島根県の空の玄関口である出雲空港を利用される県内外の方や地元住民の方々に、気持ち良く利用していただけるようにしたいと思います。

最後に、当日は猛暑の中、心配された熱中症等の事故も無く、皆様の協力で無事に作業を終えることができましたことをお礼申し上げます。参加された皆様、大変お疲れさまでした。





## 地域貢献事業報告

### 土木の日記念イベント2017

地域貢献委員会 委員長

(株)もりやま 森 山 竜 人



今年度も平成29年11月25日(土)に上塩冶スポーツセンターをメイン会場として‘土木の日記念イベント’が開催されました。

我々青年部会も実行委員の一員として参加しました。

メイン会場ではドボク模型やミニチュア重機を手にとり遊べるコーナーを設営しましたが、私はその補助をしながら人々の流れを見ていました。

ドボク模型の説明を熱心に聞いてくれる親子やミニチュアクレーンのおもちゃを手に、ずっと居座る男の子。現実には工事現場のそばを通ったとき、あの子はクレーンを指差し叫ぶのかなと想像しつつ眺めていました。

今年は3年目で、初めて天候にも恵まれて昨年の倍の入場者(約600人)ということもあり、会場はいつまでも熱気にあふれていました。

放水路内のサブ会場の重機の展示・搭乗体験のコーナーも会場間を結ぶシャトルタクシーが間に合わないくらい大人気でした。

普段乗ることの出来ない機械の操作や高所作業車での高所体験など、土木の世界を身近に感じてもらえたのではないかと思います。来場された方からは、来年もイベントをしてほしいという声もあったと聞いて、関係した者としてこれ以上ない喜びを感じました。

こうした土木の日記念イベントが、建設業という職種への魅力発信へと繋がり、建設業界に今以上に目を向けてもらえたらと思います。そして、建設業の将来のため、担い手を創る場として少しでも寄与できればと思います。

最後に、今回参加いただいた部会員の皆様には大変お世話になりありがとうございました。



## 経営研究事業報告

### 意見交換会 2017

経営研究委員会 委員  
大和建設(株) 布野 智 大



平成29年9月20日(水)に出雲建設会館において、経営研究委員会が担当する、「意見交換会2017」を開催しました。

研修会では、出雲県土整備事務所から、維持第二課長寿命化対策係長 神田貢様、建築課建築係長 山本大輔様をお迎えし、ご講演いただきました。

神田係長様には、「公共土木施設の長寿命化について」と題し、島根県の公共土木施設においては、近い将来急速に老朽化が進行し、島根県が取り組む維持管理における『インフラ長寿命化基本計画』の説明と、現在の取り組み状況について講演いただき、土木施設老朽化の現状を数値で確認することができ、改めて維持管理の必要性を再認識しました。

山本係長様には、「リビング・ヘリテージ～県民の暮らしを建設文化遺産～」と題し、県有施設を取り巻く施設老朽化の課題と今後の方向性、「大建築物」の島根県庁モダニズム建築群の価値、その耐震改修についてご講演いただき、島根県には素晴らしい歴史的価値がある建築物があり、その景観の素晴らしさを知ることができました。

研修会終了後は、場所を変えて、出雲県土整備事務所より13名の参加をいただき意見交換会を開催しました。普段お聞きできないお話を伺うことができ、大変有意義な意見交換会となりました。

今回の意見交換会で学んだことを、今後の業務に活かしていきたいと思えます。



## 卒業にあたり



(株)御船組 御船善弘

平成9年の青年部会創立時に入会し、21年間在籍させて頂きました。

思い返せば21年前、まだ業界に入って1年目、出雲に帰ってきたばかりの何もわからないままで青年部会設立総会に出席したのが始まりでした。そんな中始まった青年部会活動でしたが、先輩方が優しく声をかけてくださったり、親睦会に誘って頂いたりしてご迷惑をおかけしながらも社会人・業界人として成長させて頂きました。

最後の2年間は監事を努めさせて頂きましたが、自分が先輩方にしてもらったように、新会員を含めた全会員が参加しやすい・参加したいと思ってもらえる青年部会になればと思い、チャーターメンバーの一人として活動させて頂きました。

今後はこの会での貴重な経験を活かし、また頂いたご縁を大切に活動していきたいと思えます。

最後になりますが、先にご卒業されました先輩方、そして会員・事務局の皆様には大変お世話になりました、ありがとうございました。

今後の青年部会の益々の発展を心よりお祈りいたします。



(株)今岡興産 内藤圭司

青年部会に入会させていただいてから、色々な経験と出会いをさせて頂きましたこと感謝を申し上げます。

近年は委員長、副部長という大役を受けさせていただき、ご協力をしていただきましたこと、誠にありがとうございました。

最後の一年余りは、仕事の都合上、青年部会活動になかなか参加出来なかったことは非常に残念でした。

現在、私は東北地方で仕事をしておりますが、地元を離れて仕事をしておりますと、今まで以上に感じ・痛感させられたことは、人間一人では何もできなく、どれだけの人に支えてもらっていたか実感いたしました。

皆様方には、次年度からの新部長のもとで、今まで以上のチームワークを発揮し、業界の発展にご尽力されることと期待いたしております。

最後に、出雲地区青年部会の益々のご発展をお祈り申し上げます。また、諸先輩の皆様、会員そして事務局の皆様には色々とお世話になり本当にありがとうございました。

## 卒業にあたり



(株)中筋組 大野 剛

私が青年部会に入会した平成21年度は「コンクリートから人へ」を公約に民主党政権が誕生し、建設業界にとって大逆風が吹き荒れた年でした。建設業界はその逆風を少しずつ乗り越え、好転の兆しが見えかけて来ていますが、抱える問題は山積しています。

在籍させていただいた9年間、青年部会の様々な活動を通じて自分なりにその問題に真摯に向合ってきたのも、一重に部会員及び事務局の皆様の支えがあったものと深く感謝しております。又、山崎部会長のもと運営専務という大役を受け、最終年には20周年事業と慌ただしい最後でありましたが、その中で、建設業界で生きる上での同志や友が出来たことが私にとって一番の財産となりました。

最後になりましたが、青年部会が20周年を新たなスタートとし益々発展し活躍されることをお祈りいたします。



(有)山崎組 山崎 育男

平成9年の創立時に青年部会に入会させていただき20年間、最後のチャーターメンバーとしてこの度卒業を迎えることになりました。最初の数年間はまだ昭和の匂いが漂う豪快な先輩方に色々と指導(お叱り)を受けましたが、今思うと本当に懐かしく思います。特に私の心に残っているのは「“絆”を大切にしろ」と何度も言われたことを思い出します、最後の2年間は入会時の自分に言わせるとまさかの部会長という大役を務めさせていただきましたが創立20周年記念の式典・記念事業や各事業を会員の皆さんに本当に協力していただき事故なく無事に行うことができました。本当にありがとうございました。何よりもどの行事も高い出席率で会員の皆さんに参加していただいたことが本当に嬉しく思います。各事業を行なっていく中でたくさんの絆を築く事ができ、また会員の皆さんにも多くの絆が生まれたことが実感できました。今後も青年部会が絆を中心に益々活躍・成長されることを期待し、お礼の挨拶とさせていただきます。



## 編集後記

今年度を振り返ると、寝ても覚めても青年部会の一年でした。総務広報委員の私は青年部会創立20周年にあたり祝賀会部長に任命され、企画、設営、運営に携わりました。その中で印象に残ったことといえば過去20年を振り返るビデオ作成をしたことです。過去20年間の写真やビデオすべてに目を通して使えるものを選び編集し、本番ではナレーションも入れて、映像が華やかになりました。本当はもう少し使いたい写真もありましたが、残念ながら役員の皆さまからNGが出たので泣く泣くカットしました・・・そのうちどこかでご披露できればと思います(笑)

無事に祝賀会を終えホッとしたのも束の間、「ちょっと相談があるんだけど」と、昼飯に釣られ先輩の話を聞くことに。そして「記念事業で農林高校の生徒と何かもの造りしようと思うんだけど建築のことがよくわからなくて・・・」私は先輩の相談に快く!?協力させていただきました。そのおかげで高校の教壇に立つこともあり貴重な体験をさせていただきました。記念事業の取り組みは生徒たちと話し合いながら進め、意見を尊重し一から物を造り上げる充実感や達成感を一緒に味わうことができ、我々青年部会もとても楽しく充実した取り組みになりました。半年間、作業に携わった青年部会の皆さんお疲れさまでした。

20周年を終えて青年部会も次の一步を歩き出しました。当青年部会は満45歳まで会員として在籍できますが、会則で(本人の申し出があった場合には)満50歳まで会員として在籍できます。今から10年後、30周年を迎える時には50歳まで在籍したとして、現会員34名中、今を語れる会員は7名しか残りません。先輩諸兄が今まで築き上げてきた歴史を守る為にも若手会員の拡充、場合によっては会員資格の受け皿を広げるのも一つの手段ではないかと思います。

最後になりますが、青雲20号発行にあたり原稿の執筆、編集等ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。また今回は青年部会創立20周年「特別号」ということで表紙を私の思い出深い、記念事業の写真を使わせていただきました。

総務広報委員会 委員長 江戸 健一郎

一般社団法人

## **島根県出雲地区建設業協会青年部会**

〒693-0028 出雲市塩治善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)  
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。